

ぽれぽれ 通信

報道されない真実が

ここにある！

5・6月号
vol.52

3月2日、毎日新聞が「山本
朋広副防衛相 公費で都内ホ
テル146泊 昨秋まで議員
宿舎入らず 防衛相注意でや

そもそも必要が
無かった議員宿舎

める」と報道し、その記事が
Yahoo!ニュースで取り上
げられるとアクセス数が見る
見るうちに急増し、その反響を
見た他の報道各社も競うよう
に「在京当番時に公費でホテル
泊」、「議員宿舎住まずホテル泊」



税金でホテル?! 山本に初の スキャンダルか?!

などと大々的に後追い報道を行なった。従って、読者の方も、その二連の報道に接した方々も多いと思われる。ばればれ通信を口頃よりお読みの皆様は、ご承知だと思われるが、防衛副大臣は、防衛大臣が東京を離れる際、必ず都内に待機をし、何かあれば、直ぐに防衛省や総理官邸に駆け付けられるように危機管理体制を維持している。それは、24時間365日、休むことなく維持されている。山本が初めて防衛副大臣に就任したのは、2017年8月である。その際に、防衛省の職員から危機管理体制の説明を受け、東京に泊まらなければならぬことが判明した。

しかし、山本は、そもそも議員宿舎を借りていなかった。議員宿舎は、地方選出の国会議員の東京での生活を保障し、議員の

職務を円滑に遂行するために設置されている宿泊施設である。山本の現在の地元である神奈川4区（横浜市栄区、鎌倉、逗子、葉山）は、東京への通勤圏内であり、山本も多くの方々と同様に毎日バスや電車で国会に通勤し、夜は会合があったとしても終電までには終わらせて帰宅をする日々を送っていた。つまり、山本には議員宿舎が必要なかったのである。山本は、衆議院議員1期目の際は、京都2区で活動していたが、実は、その際も議員宿舎を借りていなかった。なぜならば、当時、議員宿舎は、都内の一等地なのに家賃が安い、豪華すぎる、議員特権などと批判にさらされており、山本も支援者から「議員宿舎に入ったら応援しない」、「絶対に入るな」などの指摘を受けていたこともあり、一人

暮らしも度々経験していた山本は自身でアパートを探し、議員宿舎より高くはなってしまうが地下鉄で通える範囲のアパートを借りて地下鉄通勤で国会に通っていた。

公務と政務は明確に分けられている

東京に泊まらなければならぬ、と聞かされた際に山本は「東京に泊まるとうるさくない。どうしたら良いのか？省内に泊まる場所がありますか？」と聞いた。省内には通称カプセルホテルと呼ばれる職員が宿泊まりできる場所があった。山本も「そこで宿泊まりさせて欲しい」とお願いしたが「副大臣がいると職員が気になってしまうので、止めて欲しい」と断られ、「危機管理宿舎は？」と尋ねたら「満室で無理です。そもそも

議員のために設定していません」と断られ、最後に出てきたのが「防衛省の共済組合が運営している宿泊施設があるので、そこは、どうですか？」となり、やっと山本の宿泊先が、防衛省の真隣に所在する通称「軍人会館」と呼ばれるグラウンドヒル市ヶ谷に決定した。

宿泊先をあれこれ考えるぐらいなら初めから議員宿舎に入っていれば良かったのに、と感じた読者の方もいるだろう。これには、「公務」と「政務」の違いが起因している。副大臣としての仕事は公務であり、議員としての仕事は政務である。例えば、副大臣に公費で充てられる公用車も公務には使用して良いが、政務には使用してはいけない。つまり、政治家として参加する会合には公用車を使用して行くてはいけない、ということ



防衛副大臣
内閣府副大臣
山本ともひろ

▲危機管理体制(宿泊)について答弁する山本

である。また、議員宿舎と同様に特権的だと指摘されるJRパス(国がJRに代金を支払い得ている定期券)を持っていればJRに乗ることは出来るが、公務で出張に行く際は、役所は「JRパスは政務で使うもので公務の際は使わないでください。省として切符を公費で購入します」とわざわざ切符を公費で購入するのである。それほど

までに公務と政務は明確に分けられている。では、山本が防衛副大臣として危機管理のために東京に泊まることは公務なのか政務なのか、賢明な読者であれば、目瞭然だろう。間違いない。完全に公務である。加えて、議員宿舎は、公務のために整備されており、公務のための施設ではない。

大臣は、議員に限らず民間の有識者から選ばれる場合もある。事実、過去にも複数名の民間の方が大臣として入閣をしている。防衛大臣に民間の方が就任された例もある。では、仮に都内に自宅を保有されていない方が、防衛大臣に適任だと判断された場合はどうなるのか？もちろん、議員ではないので議員宿舎には入居出来ない。副大臣の山本ですら省内の通称力プセルホテルや危

機管理宿舎の使用を拒まれたのであるから、その民間有識者の大臣も同様の対応になるのだろう。防衛省に確認したところ、そのような場合の制度を考えていなかった、とのことであつた。つまり、大臣や副大臣になる人は、議員宿舎があるもので、それ以外は想定外ということである。今回の報道を受け、過去8年間(今回の安倍政権期間)を遡り確認したところ公費で都内に待機した者はいなかった。全員が議員宿舎に入居していた。つまり、議員は公務のために議員宿舎に入居しているのが当たり前で、それを流用する形で公務である危機管理体制を維持するのが当然のように行われていたのである。しかし、山本だけは前述の通り、例外的に従来から議員宿舎を活用していなかつ

た唯一の議員であり、それにより今回の事例が起きたと言わざるを得ない。

「均衡性により 全額自主返納」

公務による都内への滞在に掛かる費用は、公費で負担するのは当然であり、手続きに何一つ瑕疵はなく、ましてや違法性は微塵もなかった。公費で都内に泊まっていたことが、さも悪いことのように、違法なことをしているかのように面白おかしく連日報道されたが、何う悪いこととはしておらず、違法性も無い。従って、防衛省から掛かった費用の返納も求められていなかった。しかし、山本の判断は早かった。「どのような形であれば、返納できるのか、至急調べて欲しい」と防衛省に指示を出し、返納することが法的に可能

であることが分かるや否や「全額返納する」と言い切った。河野防衛大臣からは「支出に瑕疵はなく、問題がないのになぜ返すのか?」と問われた山本は「均衡性(バランス)です」と即答し、自らの判断で全額を自主返納することを決めた。

「返納するのは、やっぱり悪いことをしたからだ」、「間違っていないければ返納はしないはずだ」などの指摘もあったが、その指摘は全く当たらない。自主返納の理由は、明確であり、均衡性の維持だ。他の議員が都内に待機するのに議員宿舎を活用していた場合、それがその議員の都合で元々借りていたとしても、その議員は自費だ。一方、山本は自費では無い、となると心穏やかではない方々も多いだろうし、そのようなことで後ろ指をさされるのも非生産的

である。そして、均衡性の維持のために現在、山本は公費による宿泊は一切していない。これからも山本には、正々堂々と職責を果たしてもらいたい。そして、引き続き本紙で、その様子をお伝えしたい。

お知らせ
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定しておりました3、4月の駅頭活動は中止とさせていただきます。

アドレスは「ぼればれ」

twitter, Facebookも
本人がやっています

皆様からのご質問やご意見、
お待ちしております。



twitter
@ty_polepole



facebook
facebook.com/ty.polepole



ぺんぺん特別秘書官の603運動紹介！

第12回は、 「バードカービング さえずり会」の紹介だ！



バードカービングの歴史を少し説明するぜ！かつて狢をする際に他の鳥を呼び寄せる為のおとりとして作られていた木彫りの鳥をより実物に近いリアルな工芸品、一つの芸術品として認知されるようになったものが「バード＝鳥＋カービング＝彫刻(birdcaving)」だ。さえずり会は手彫りの鳥の彫刻を作る会なんだ！

原寸大の鳥を彫るのが基本だけれど小鳥のサイズから大きい鳥の縮小サイズまで自由な作成を行っているぞ。細かい作業ゆえに1年に作れる数は限られるが、完成したものは塗装や細部の彫りの相乗効果で本物のような出来

栄えだぜ！

活動日は毎月第1・3金曜日の13:00～16:00、会場は大船行政センター(空き次第で変わることもあるぞ)。彫刻道具は各自持参となっており、入会金1,000円、月2,500円。毎年実施されている大船フェスティバルへの出展を目指して日々作成しているぞ。なかなか鳥に出会う機会も限られている今、鳥が好き、彫刻に興味を持った人は見学も出来るのでぜひ参加してみてください！



お問い合わせ先

代表者 比内 護

講師 藤井 晶子

連絡先 0467-46-3680

神奈川県民はどれだけ歩いている？ストレスとの関係

山本もメンバーである「(一社)ストレスオフ・アライアンス」が「日本人とストレス性疲労」の研究を進めている。今回は歩行習慣について取り上げる。

【男女・都道府県別 年間200日以上(4日/週)歩く頻度】(%)

男性		年間200日～ (4日以上/週)	女性		年間200日～ (4日以上/週)
1	神奈川県	17.5	1	東京都	10.7
2	東京都	17.2	2	神奈川県	10.7
3	千葉県	16.9	3	京都府	10.2

【男女・ストレスレベル別 1日8,000歩(5km程度以上)歩く習慣】(%)

	ストレスレベル	年間0～9日 (1日未満/月)	年間10～39日 (1～3日/月)	年間40～199日 (1～3日/週)	年間200日～ (4日以上/週)
男性	高ストレス者(77点以上)	66.7	13.4	10.3	9.6
	低ストレス者(39点以下)	60.2	8.3	12.3	19.3
女性	高ストレス者(77点以上)	75.1	10.1	8.0	6.9
	低ストレス者(39点以下)	63.7	10.9	13.4	12.0

出典：メディプラス研究所

新型コロナウイルス感染拡大防止策により、日本全国で外出自粛が求められた。しかし、ストレスのコントロールに運動習慣は欠かせない。

神奈川県は男性が全国1位、女性が2位と素晴らしい成績！通勤時間が長い首都圏は必然的に歩く頻度が上がる一方、地方では車社会でなかなか運動の機会が少ないためだろう。

厚生労働省の資料によれば成人の目標歩数は一日8,000歩であり、これを達成する「歩く習慣」が推奨されている。しかし2019年度の調査によると、残念ながら6割以上の成人男女が年間0～9日程度しか達成できていないことがわかる。月に1回も実施できていない状態だ。都道府県別で週に4日以上歩く習慣がある割合を分析すると、なんと

0～9日程度しか達成できていない人に比べ、週1～4日以上歩く習慣がある人が低ストレス者に多い傾向がみられる。不要不急の外出は避けつつ、時間をずらし一人での散歩などで歩行習慣を続けるなど、この状況下でもストレスをセルフコントロールすることを心がけていこう。

山本ともひろプロフィール

経歴

- 関西大学 商学部 卒業
- 京都大学 大学院 修士課程(法学)修了
- (財)松下政経塾 卒塾 (21期)
- 米国ジョージタウン大学 客員研究員、その後、会社員を経て
- 平成17年 衆院選 初当選
- 平成26年 文部科学大臣政務官・復興大臣政務官 就任
- 平成27年 オリンピック・パラリンピック大臣政務官 就任
- 平成29年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任
- 平成30年 自民党 国防部会長 就任
- 令和元年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任

自由民主党 衆議院議員(4期 11年)

神奈川4区(栄区・鎌倉市・逗子市・葉山町)

昭和50年(1975年)生まれ
44歳 鎌倉在住



分かりやすいと大人気!

国会・防衛省見学案内実施中!

国会や防衛省を山本ともひろと一緒に見学してみませんか?

「政治が身近に感じられた」「分かりやすく、楽しかった!」と大人気の見学ツアーは無料で行っています。詳細は下記の事務所まで、お気軽にお電話ください。



ぽれぽれ通信って何?



「ぽれぽれ」は、ケニアの公用語のスワヒリ語で「ゆっくり、ゆっくり」という意。私は、ケニア・タンザニア米国大使館同時爆破テロの現場(ケニア)に居合わせたのがきっかけで政治家を志しました。

一度に全てを変えることは無理でも、諦めず、ゆっくりでも少しずつでも政治を変えていきたい。そうしなければこの国は良くならない…。そしてその活動を皆様にお伝えしていきたいという想いを込めて、この冊子を作っています。



山本ともひろ事務所リスト

本部事務所

神奈川県鎌倉市大船1-6-6 大久保ビル3F
TEL:0467-39-6933 FAX:0467-39-6943

国会事務所

東京都千代田区永田町2-1-2 第2議員会館 1110号室
TEL:03-3508-7193 FAX:03-3508-3623

令和2年(2020年)5月1日発行 第52号

【編集・発行】山本ともひろ後援会ぽれぽれ通信制作委員会 鎌倉市大船1-6-6 3F TEL 0467-39-6933 FAX 0467-39-6943

※本誌は、隔月(1、3、5、7、9、11月)発行の機関誌です。バックナンバーについては上記事務所までご連絡ください。またHPにも掲載しておりますのでご覧ください。